

みんなで紡ぐ集落の物語

次世代に伝えたい、集落の暮らしと私たちの思い

2014年6月28日、復興まちづくりワークショップが開催されました。震災から丸3年が経過し、まだまだ多くの課題がありますが、徐々に新しいまちが立ちあがっています。そんな中、震災前の暮らしを丁寧に記録することで、次世代に伝えるものとして、未来を考えるための記憶を掘り起こす呼び水として各集落の物語を小冊子にまとめるプロジェクトが発足しました。

構成としては、「まちなりたち」、「暮らし」、「思い出の集落」という3部構成に、出来事に関する年表を付録にまとめたかたちとしています。

「まちなりたち」では、明治時代から震災前後までの空中写真と解説、集落の名前に関する由来、立地に関する特徴の記述を行います。

「暮らし」では、集落のシンボルや人々との関わりを丁寧に記載します。例えば長谷釜集落では、「神社」、「海と松林」、「いぐね」、「前川」、「貞山堀」が挙げられます。

「思い出の集落」では、初めて来た方が集落を訪れたことを想定し、集落案内と住民のみなさまによるメッセージと写真を綴ったものとなっています。

このような小冊子をつくるために、先号で紹介した「City Engine」の先端技術を活用しています。その一方で誰もが手に取れるアナログな冊子にまとめていくことで多様な世代が震災前の集落について思いを馳せることができるようになることを目指します。時間はかかりますが、地道に積み重ねた住民のみなさまの思いを丁寧に紡ぎ、かたちにしていきたいと思えます。



写真：小冊子のイメージ



小冊子の内容のイメージ
(明治時代の長谷釜の地形図)



小冊子の内容のイメージ
(相野釜のあるお宅の震災前の暮らし)



写真：CityEngineを利用して暮らしについて語る住民のみなさま